

マスコミは沖縄集会「11万人」の虚報の訂正を！実は2万人以下だ

国民は歴史偽造を絶対に許さない！

沖縄集団自決の教科書検定意見は正しい

沖縄戦における「集団自決」が、日本軍による命令や強制によるものであるとする高校歴史教科書の記述に、文科省は、それは、明確な事実ではないとの検定意見を付し、記述は一度修正されました。それは曾野綾子さんの本や梅澤隊長、宮城初枝さん、照屋昇雄たちの証言があり、沖縄県史・沖縄県警察史の記述が広く知られるようになったからです。

教科書への不当な政治介入に断固反対します

しかしこの検定意見の撤回を求める反日左翼集団による政治運動が、沖縄で起こりました。九月二十九日の集会で、二万人に満たない参加者を十一万人余と偽り、マスコミのほとんどもこれに加担して、政府に圧力をかけたのです。福田政権は、これに屈し文科省に見直しを指示しました。文科省は「自発的」訂正をそのかしたため、教科書会社は記述を元の内容より悪く書換え申請し直しました。これを認めれば真実が捻じ曲げられ、偽(にせ)の歴史が作られ、生徒はそれを洗脳されることになるのです。地方議会の検定意見撤回の決議も行われていますが、教育行政は国民全体のために行われるものであり、その道理のない検定意見撤回要求には応じられないのです、絶対に応じてはなりません。

日本軍の命令や強制がなかったことは史実である

日本軍の命令で集団自決が起こったことにされてきた理由は軍命令による自決ならば、遺族に国から年金や弔慰金が支払われたからです。そのため、村長らが嘘の証言を頼みこみ、梅澤、赤松隊長は善意でそのウソを受入れてしまったのです。当時、沖縄は米海軍の艦船に包囲され連日連夜砲撃が加えられ、迷惑う住民からも多数の戦死者が発生し、敵の手に掛かって死ぬより自ら死にたいとの気持で集団自決が起こってしまったのです。日本軍が命令したとか強制したとか、軍が住民を虐殺したということは絶対にありません。

歴史偽造は学問の否定だ、学力は崩壊する

いまや反日左翼とそれに連動するマスコミの報道や政治圧力により「沖縄集団自決」は「従軍慰安婦」や「南京大虐殺」と並ぶ、日本を貶める歴史捏造の一つになってしまったのです。我が国の学問の自由、言論の自由、表現の自由が圧殺されようとしています。虚偽を真実として教えることは全ての学問を否定することであり、たちまち学力は崩壊します。沖縄県の全国最低学力は、このことが原因でもあるのです。

教科書検定制度を守れ、沖縄県民を守れ

近隣諸国条項にこの沖縄条項が加えられれば、南京や慰安婦の教科書検定にも悪影響が及びます。そうしたらこの十年の教科書正常化運動は頓挫してしまい、我が国の子孫の自虐史観からの脱出は永遠に不可能になってしまうのです。沖縄を残酷な中国に侵略させるという反日左翼の真の目的が達成されたら、集団自決という悲劇が再び繰り返されてしまうでしょう。我々は断固として沖縄を守らなければなりません。

新しい歴史教科書をつくる会 東京支部・二多摩支部

〒一九一〇〇〇一 東京都日野市栄町四二五十四 渡辺眞事務所気付

電話 〇四二五八四一三三九〇

平成十九年十一月発行